

「ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのか ー第2回ー」

ギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者の状況

北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博

1. Jリーグ3年目となる2012年シーズン開幕

本号の発行時にはJリーグの2012年シーズンがすでに開幕（J2は3月4日開幕）している。序盤のギラヴァンツ北九州の戦いぶりはどうだろうか。本稿執筆時点（2011年12月下旬）では選手の陣容等も明確には公表されていないが、2011年に大きく成長した若手選手達と中堅・ベテラン勢が切磋琢磨し、勝利を重ねていく事を期待したい。

この2012年シーズンは、ギラヴァンツにとってJリーグ加盟3年目のシーズンとなる。今シーズンからは、J2上位にはJ1昇格に向けたプレーオフ制度が導入される一方、J2下位がJリーグ会員資格を失いJFL（アマチュアの全国リーグ）に降格する入れ替え制度も導入される。大東和美Jリーグチェアマンの言葉^(注1)を借りると、各Jリーグクラブは「いままで共生してきましたが、これからは競争が生まれます」という節目の年となる。しかも、ギラヴァンツのJリーグ加盟後、ガイナレ鳥取、町田ゼルビア、松本山雅の3クラブが既に加盟した事を踏まえると、ギラヴァンツは「まだJリーグに加盟して間もないから」といえる立場ではすでになくなっているといえよう。

ギラヴァンツが着実に成長し、多くの効果^(注2)を地域にもたらし続けていくためには、戦力充実の基礎ともなる安定的な経営基盤の確立が必要不可欠である。Jリーグクラブの自立的な収入は「広告料収入」と「入場料収入」であるが、いずれもギラヴァンツは現時点で他のクラブと比較すると

低い水準にある。クラブや地域の努力により、少しずつ成長してきてはいるものの、より高い水準での安定を目指していくことが必要であろう。そのためには、スタジアム観戦者数を増加させ、入場料収入の増収およびスポンサー価値の上昇等を図っていくことが極めて重要であり、その方策を検討するに際しては観戦者像の分析が必要となる。

そこで今回のコラムでは、ギラヴァンツ北九州の観戦者像を概観したい。

2. ギラヴァンツ主催試合の観戦者数

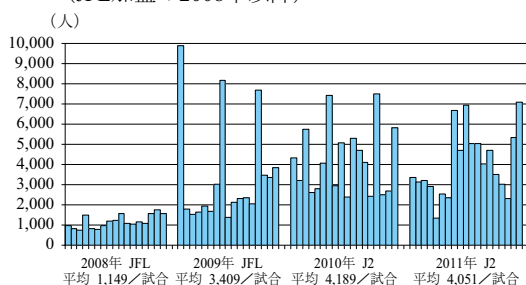
2.1 過去4年間の推移

ギラヴァンツの前身のニューウェーブ北九州がJFLに昇格した2008年以降における、北九州主催試合の試合別観戦者数の推移を図1に示す。

年別の1試合平均観戦者数をみると2011年は4,051人であり、Jリーグ加盟初年度だった2010年から微減という結果に終わった。この数字だけみると、2010年にわずか1勝しかできず最下位に沈んだチームが、2011年に三浦泰年監督のもとに新生し16勝をあげ、20クラブ中8位の好成績を収めた結果が集客に結びついていない感も受けるが、この点については2.2で分析を加えたい。

一方、見方を変えると、2008年には1試合平均1,000人程度だったクラブが、Jリーグ加盟後は大規模な“組織的動員”なしで観戦者数を伸ばしつつあるとも評価できよう。

なおJリーグの試合は対戦相手によって大きく観戦者数変動する。これは、対戦相手のファン、

図1 ギラヴァンツ北九州試合別観戦者数推移
(JFL加盟の2008年以降)

(出所) 筆者作成

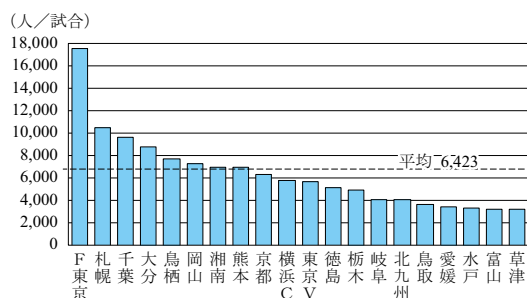
サポーターの来場数に左右されることや、北九州近郊に住む人々がスタジアムに観戦に訪れるかどうかの意思決定に際し、対戦相手の魅力度が影響していることが考えられる。事実、九州内のクラブとの対戦や、有名選手を擁するFC東京、横浜FCなどとの対戦では観戦者数は多くなっている。2012年はアビスパ福岡がJ2に降格してきたため、「福北ダービー」が実現する。どれだけの盛り上がりを見せるのか、楽しみだ。

さらに、試合ごとに変動が大きい要因として、特に北九州では無視できない事項があると筆者は考えている。それは「天候」である。北九州では「特に」と考える理由は、本拠地である市立本城陸上競技場の観戦スタンドに屋根がない事にある。この点についても2.2で分析を加える。

2.2 2011年シーズンの観戦者数

2011年シーズンのJ2クラブの主催試合平均観戦者数を図2に示す。全体平均は6,423人/試合で、ギラヴァンツ北九州は20クラブ中15位となっている。近隣の太田、鳥栖、熊本、岡山が7,000～9,000人近く集めていることを勘案しても、ホームタウン人口に恵まれているはずのギラヴァンツは、一層の努力が必要な状況といえよう。ただしむやみに焦る必要はない。地道に着実な取り組み（広報、地域貢献活動等）を草の根的に進めてい

図2 2011年J2クラブ別1試合平均観戦者数



(出所) 筆者作成

くことが肝要であろう。

次に、2011年のギラヴァンツの平均観戦者数を時期別に整理したものを表1に示す。ここでは興味深い結果が表れている。シーズン序盤7試合と中盤7試合を比較すると、平均観戦者数が倍増しているのだ。ギラヴァンツは4月30日に約1年ぶりに勝利（敵地での愛媛FC戦）すると、5～6月に本拠地本城でも4勝1分と好成績を上げるなど波に乗り、報道等を通じて注目度も高まった。こうした活躍ぶりを反映し、また魅力的な対戦相手を迎えたこともあり、7～9月期には観戦者が増大したのもと思われる。夏休みのため、ナイター観戦に子ども連れも訪れやすい事もあったであろう。10～11月は観戦者数を減らしているが、平日開催が有りながら昨年通年の平均観戦者数4,189人/試合を上回る水準でシーズンを終えている。通年でみると、序盤の観戦者数が少なかったことが影響し、昨年平均を下回る結果となっているが、チームが好成績を上げるに連れ観戦者数は伸びている点は特筆できる。通年の結果のみをみて「ギラヴァンツに対する市民の関心は低下している」と判断することは適切ではないのではないかと。

次に、2010年と2011年を比較し、同じ対戦相手との試合におけるギラヴァンツ主催試合観戦者数の増減をみたものを図3に示す。大きく観戦者を減らしているのは千葉戦、富山戦、鳥栖戦であり、

表1 ギラヴァンツ北九州2011年平均観戦者数

期間	主催試合	本拠地で の戦績	平均観戦者数 (人/試合)	観戦者数 (人)
3～6月	7	4勝1分2敗	2,681	18,770
7～9月	7	2勝3分2敗	5,288	37,013
10～11月	5	3勝1分1敗	4,239	21,193
※通年	19	9勝5分5敗	4,051	76,976

(出所) 筆者作成

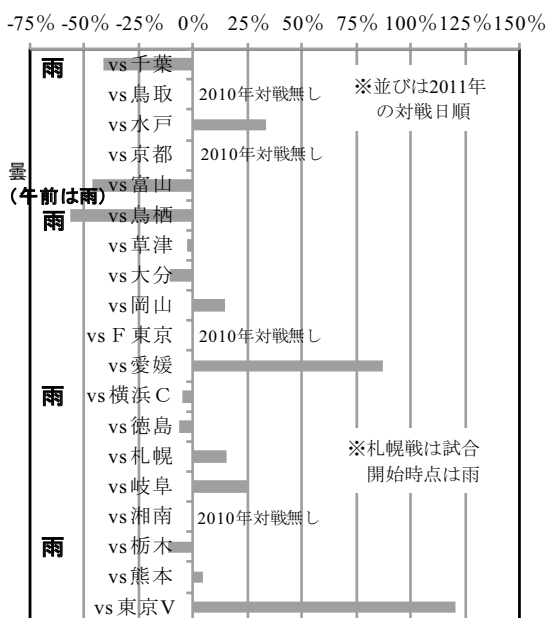
いずれも対前年比マイナス40%超という激減ぶりである。この3試合には「シーズン序盤」, 「試合前に雨が降っていた」という共通点がみられる。この3試合以外は目立って減少している対戦はなく, シーズン中盤から後半にかけては対前年比がプラスの対戦が増えている。なお, 前述の3試合以外で雨が降った対戦は横浜FC, 栃木との2戦であるが, いずれも観戦者は減少している。

このことから, 前述のようにシーズン序盤はチームの戦績が上がっていなかった事に加え, 雨が観戦者数に大きな影響を与えたと考える事ができよう。2.1で述べたように, ギラヴァンツの本拠地の市立本城陸上競技場の観戦スタンドには屋根がなく, 構内に雨をしのぐことができる場所もほとんどないため, 傘をさす事が禁じられているJリーグの雨中観戦は, ギラヴァンツを研究対象とする私のような者にとっても率直に言って「苦痛」だ。観戦しない選択をする人々が多数出ることは自然な現象といえる。この問題を解決するには, スタジアムのハード面での改善が必要となろう。

3. ギラヴァンツのスタジアム観戦者像の概要

それでは, 本城陸上競技場にギラヴァンツの試合を観戦に来ているのはどのような人々なのだろうか。筆者はJリーグと共同し, ギラヴァンツ北九州のスタジアム観戦者調査を2010年から実施し

図3 ギラヴァンツ北九州2011年対戦相手別観戦者増減率(対2010年同一対戦比)



(出所) 筆者作成

ている。この調査は, Jリーグが全クラブを対象に実施する調査(クラブ間比較を行った結果をJリーグが公表)に加え, 共同研究者やクラブが独自に設問を行うことができる。2011年は9月17日のコンサドーレ札幌戦で調査を実施した(表2)。本稿では, その結果の一部を簡単に紹介する。

◆観戦者の応援クラブ

有効回答453サンプル中, ギラヴァンツの応援者は332(73.3%), 他のJクラブの応援者は18.8%, 応援クラブは特にない人は5.3%であった。

◆ギラヴァンツ応援者の性別, 年齢

ギラヴァンツ応援者332サンプルの性別・年齢を表3に示す。なお平均年齢は42.6歳で, 他クラブ(昨年の全国平均38.2歳)よりやや高い。

◆ギラヴァンツ応援者の応援歴

2011年から応援しはじめた人が28.9%と最も多く, 次に多いのが2010年からの26.2%である。Jリーグ加盟後に応援を始めた人が55.1%にのぼって

表2 調査実施概要

調査日時	2011年9月17日（土）16：00～18：00 北九州vs.札幌（試合開始18：03）にて
調査方法	訪問留め置き法 （無作為抽出となるよう努め、事前抽出した座席に着座した観戦者に回答を依頼し、約30分後に再訪問して回収）
回収状況	有効回収数453（当日観戦者の9.7%）

（出所）筆者作成

おり、ギラヴァンツが新たな観戦者を獲得していることがうかがわれる。なお2008年のJFL昇格後から応援している人は26.2%、九州リーグ時代から応援している人は17.2%となっている。

◆ギラヴァンツ応援者のチケット入手方法

表4に示すように調査当日のチケットについて、「もらった」とする観戦者が最も多い。その多くはギラヴァンツを支える企業・団体等がクラブから購入し配布した間接招待券と思われる。この「招待券問題」には現在のギラヴァンツの特徴や課題が複合的に凝縮されているように感じる。

◆ギラヴァンツ応援者の居住地、アクセス

表5に示すように北九州市居住者が80%を占める。なお本城陸上競技場までの片道所要時間は平均40.7分であり、主な交通手段は自家用車が60%を超え、JR折尾駅からのシャトルバス利用は10%程度である。

ここまで紹介したところで早くも紙面が尽きた。肝心のギラヴァンツに対する観戦者意識や、関連消費の状況等の結果については次回に譲りたい。

注

（注1） 2011年12月12日の記者会見での発言。

（注2） 地域にもたらす効果の種類等については、本コラムで順次述べていく。

表3 ギラヴァンツ応援者の性別、年齢

	項目	回答者数	構成比
性別	男性	217	65.4%
	女性	114	34.3%
	合計	332	100.0%
年齢 ※調査対象は11歳以上	10歳代	19	5.7%
	20歳代	39	11.7%
	30歳代	92	27.7%
	40歳代	86	25.9%
	50歳代	37	11.1%
	60歳代	40	12.0%
	70歳以上	15	4.5%
	合計	332	100.0%

（出所）筆者作成

表4 ギラヴァンツ応援者のチケット入手方法

入手方法	構成比
シーズンチケットを購入	19.3%
コンビニで購入	11.1%
プレイガイド、ネット、電話で購入	3.6%
チケットをもらった	30.1%
スタジアムで購入	18.4%
その他（サポーターズクラブ入会特典利用等）	16.3%

（出所）筆者作成

表5 ギラヴァンツ応援者の居住地

居住地		構成比 (n＝332)
北九州市		81.3%
	門司区	4.5%
	小倉北区	9.6%
	小倉南区	15.7%
	若松区	7.2%
	八幡東区	4.2%
	八幡西区	22.3%
	戸畑区	2.4%
※区名無回答		15.4%
中間遠賀地区		3.9%
京築地区		4.8%
筑豊地区		1.8%
福岡都市圏（福岡市，宗像市など）		1.8%
その他福岡県内		0.3%
福岡県外	山口県	2.4%
	関東地方	2.4%
	中四国地方（山口除く）	0.6%
	九州地方（福岡除く）	0.6%

（出所）筆者作成